

家我大史招招新書

三

義太夫獨習新書參の卷

古人の教、去嫌七箇條の事

第一 聲を似せるをきらふ、信仰なれば心を似すべし總じて似せるに能事は似ぬものなり

第二 仲山にやかましきを嫌ふ、只やすらかにして上品に語るべし

第三 味い事をいはんご聲をすかし、べた正根を嫌ふさらく語るべし

第四 長くして節付き地合ならぶを嫌ふ、長短大事にすべし

第五 調子持前より下くう樂くせんごするを嫌ふ、しんごすべし行義あしくなるなり

第六 聲をつくり舌味ありて下品なるを嫌ふ

第七 淨瑠璃を好て稽古をきらふをいましむ

淨瑠璃語り方の辨

夫れ淨瑠璃は流水の如く、節は淀の如し、水は方田に從て或は角にも丸にもなり時には淺き瀬にて波を催ほし、深き淵にて緩るく、岩にふれては逆巻く、廣き處は遅く、狭き處は急なるが如し、音曲も亦た此の如し、文句によりて心を付け廣き處は廣く、急なる處は急に夫々文意に相應するこそ肝要なり、我こそ語上手なりて其自すれば時により重くもたれて聞にくし、やすらかに輕く人の耳に立ぬやうに面白き節を語るべし、珍膳も飽けば味なし廉食も珍敷時は甘露にもまさるごかや

一淨瑠璃は中音なるを貴ぶ是れ中(二)より起りて一、二、三、通ふものなればなり左にその音の大要を理解せん

一音 (陰) 二音 陰陽合体す 三音 (陽)

古天地未割、陰陽不^レ全。渾沌如^レ鶏子。輕清者薄靡^レ沍^レ天。重濁者淹滯^レ爲^レ地。一は陰

也。三は陽也、故に一の音は重く濁れるなり是陰にして、三は輕く澄めるものは陽也、

然れば三を上にし一を下にする道理なれども陰は沈み、陽は登るが故に沈む物を上

にして浮ぶ物を下にすれば、下よりは登らんごし上よりは沈まんごすればなり、されば

陰陽の中にありて陰陽の合する處は二なり、陰陽の滿る處にこそ聲あり曲あり、萬音

の發するは爰なり、故に二の音を専ら語るここに氣を付けざるべからず

一四季四音ごいふ事あり大切に心掛べし、夫れ四季ごは節の四氣ご言ふ事にて一、調

子 二、拍子 三、節 四には時の氣、矢張四音ご相待て位を考へ語る時は四季調ふ

者なり

一四音ごは 祝言、函立、戀慕、哀傷、なり工夫して語り分るごを要す

一祝言 文字移りを可成正しく語り發音は太ごからず小からず、強きを本ごす、是れ

祝言の地躰なり、故に例令殘の音を語る共聲はいつ迄も祝言の聲にて心に思ひ入し

て語るべし

一函立は祝言の聲を其儘にて吟をやわらげ、さわやかに只琴笛鼓杯を聞き花の下にて

日を暮し諸事を忘る、心にて語るべし

一戀慕は函立のうへにせつなる心を専らごす、いかにもなつかしき心もち、ふかく

思ひ入て語るべし、思ひ内にあれば色外にあらはる、ごて、白露も紅葉にたけば紅

の玉ごいへるが如し

一節に切字ごいふ事あり左に其例を示せば

(本フシ) 澤の 此處切字 かはつの、こゑくに 心の句切

總じて切字ごいふは節にたるみなく間を崩さぬ爲なり故に切字に能く工夫して語る

を肝要ごす、尤も字に句切なくごも心の句切ご申す事も有れば深く考ふべし

右の如く、澤の、にてスツバリ言ひ切るは蛙の、ご語らん事を欲すればなり、たごへ

ば犬猫にても飛んごすれば先きに其身体をちむにあらすや、音曲も猶然り、蛙のご

節に勢を附んが爲めに澤のご切る是ちむなり、又聲々もご流しながら切るは、後の

文句を心から切りかへて語り出さんが爲なり、是れ心の句切ごいふべし

故に何れの節ごても此心なるべし

一 淨瑠理は語り始めより仕舞まで縁の切れぬ様前後の連絡を取ご第一なり、つら

く 淨瑠理文句を鑑みなば粒程の縁切もなきものなれば之れを離れ、に語るに

於ては聞人忽ち退屈の念を起すべし、故に節落には殊更氣を付る事肝要なり

五の巻に於て文句の説明あり對照あるべし

一 淨瑠璃を語る心得として、一生懸命と云ふのは誰しも云ふ事で分り切た事であるが、幾許一生懸命に語つた處で味と言ふ物が無かつたら何の趣もない、そこで要するに其極意の第一なるものは、総ての人物を情愛で責絡んで仕舞ふ事を忘れては成らぬことが肝要である

総じて心持を克く語れば聞人の退屈せぬ者なり、故に心持を克く語らんとならば縁切ぬ様情を語らざるべからず、上手下手の區別は此處にあり、何の稽古もなき事にさへ上手下手あり、況んや發音其他種々の六ヶ敷曲ある淨瑠璃に於てをや、何の意味なき一口噺にても情をうつし愁は愁の心になり修羅は修羅の心になりて咄せば興味ありて

聞人に木のづから感動を與ふるものなればなり、聲如何に美しく口舌如何に妙なるも節數如何に整ふも文句の心を身に受けて語るにあらずんば如何にか感動を人に與ふるの理あらんや、唯作り雛の如く五躰連續すれども五常なきが如し、されど處々によりては愁の文句にてもはでなる節付のあることあり、之れ等は退屈を慰めんがため余り沈む淨瑠璃に多く用ひられつゝあれども、やは身心さへ愁ひて語れば却つて愁を増ぞかし、これを例せば用明天王鐘入に一人のよろこぶ日といへば我はなげきの増かみ、此節冷泉節にてはでなる節付なれども、文句は愁なれば、唯々其心を語こそ文句に符合し聽者をして感ぜしむるなれ

然りと雖ごも心斗りにては淨瑠璃には成がたし、心協ひなば其他言舌を練べし、抑も音曲にては心言舌の釣合完全なるを尤も肝要とす、以上心を解り言は文字のあつ

かひ、あざやかに、かなづかひなどを誤ることなきをいふ、舌は文字に實を入れて、
じかもふしきれもなく、かるく語り語るをいふ、此三ツのもの一ツもかくることなき
やう能く考ふべし

一すべて(ちよぼ)語りをなすべからず、之は誰人も知事なれども、節乱るゝ而已な
らず、其趣向を害する者なればなり、何故に趣向を害するやと云ふに一例を示せば、
丹波與作中の巻に「母は性根も泣き入りて、前後も分ず乱るれど此ためてたい道中に
繩付なごは見ぬものご、人にさそはれ力なく見返りく奥に入る」と浄瑠理にては子
役なれど其を繰るものは重の井を遣ふ者に同じ程の功者なり、語人また一流の太夫な
れば、重の井を先づ消し、其の跡にて三吉一人の愁歎を演じて幕にはするなり、歌舞伎
にありては然らず、母を其處へ残し置き三吉が引立てられて入るごき亦た立寄らんごす

るを侍女共にさへざられ三吉も亦見かへりて互に顔を見合せつ、ある時幕切ごなすな
り、之れ大に其趣の異にする例なり、斯様な趣向の異なる事多き者なれば浄瑠理を
語るものは必らず歌舞伎浄瑠理を耳にすべからず

明治四十五年七月十六日付大阪時事新報藝界欄に左の記事を見受た抜載して参考の資
ごす

素語りの方が好い

御霊の文樂座を定興行として居る越路、南部以下の太夫連が浪花座に出て素浄瑠理を
始めた處人形といふ道伴が無い爲め却つて舞臺に餘裕が出来太夫も筒一杯三味線も腕
限り弾立る事が出来るので人形のあるごは打て變つて活氣がある斯うなるご素浄瑠
理萬歳だ

元文延享の肥後曾重の事、新撰野舟の對譯也。

森貝三瀬、瀬曲の瀬也。其の死事の人。

盆水太瀬、瀬の故。曾田主瀬の心、干瀬と譯す。野田一、其の瀬也。

野田 一 景

盆水太瀬

播州皿屋敷

三重

ゆたかフシハルちりフシハルはりまがた。あさへフシハルあ

まめくフシハルひめぢのじやうか。五けんやフシハルしきの

ひとフシハルかまへは。ごからうフシハルあをフシハルやまフシハルしやう

げんてつフシハルさんが。あもフシハルやかた。みやフシハルこがた

のちんフシハルきやくとてフシハルあほフシハルざりフシハルあらぬ。まフシハルうけ

のちん。つきやまをふばた。せんをるの。
ながれを。しき。なつのけい。されば。て
つさんきやうだいがむ祿のたくみはこかけ
なる。こゝろをくばる。をりこそあれ。
なよかはあらをのとびいしを。またよりむ
くくは祿かへせば。なよものち

うだがみがまへ。
河ア、イヤさあぐなおやうや。

やうきはあやできるこや。きづかふこ
とほをこしもないど。せいをるうちよ。だ
いのをのこのくろあやうぞく。あなのなか
よりぬつといで。もつたるさぐえの。ととも
しびを。ふつとふまけしあやうら。つくろ

ひてつさんが まへよ ^ヤ かつくばふ ^ハ
^ホ げさいのありをけたいぎく。こもよ
あるはちうだといふて みがおとらや。こ
ろをかぎとれいくあうるんの。ごてんの
やうを ^サ ぞらごやきくたい ^{キメル} く。ワア、いか
よもあふせつけられごやう。おぬまのこ

たへほりぬき。こころをつけてうかひま
をせば。たかをかさいざうるしやのあんた
く。ふうふづれよてわかとののおんこ。き
よわかさまをおんともまうし。ごてんよと
うりうのやうをうけたまある。また、その
ほかよてつさんさまを。うたがふやうなと

りさはは。イツコオあひみえまうさぞと。いち
くかたるありをけが。かほをながめて

河ホ、ウあつはれういやつ。でかいたく。

ながくいくの、かなやまをはたらきしゆ
ゑなんぢがつら。なまじらけてみぐるしい。

ぞつきをはらふめうやくをこしらえおい

た。たらざのほらびよあたへんぞや。ひや

つのつぼをとりいたし。てうづひしやく

よくまりをうつし。みづくみいれてさ

しいだせば。ハ、ア、コハありがたしとおつとつ

て。なよごころなくぐつとひとくちのむか

とおもへば。たちまち。五たいのうらん

し。こころをつかんであつてんばつやう。

河ヤ、コハくいかよとおどろくちうだ。てつ

さん。かたほうよ。にあく。あらひ。

ハ、くム、ー。ムハ、ー。河 大ワライ いちだいじを志りぬい

てゐるア、げらうめ。さいはひやくのこ、

ろみよころしてあまうわがしよぞんは。お

どうとながら。よもあるまい。わかとの

ともゑのをけへむ二のちうしんとみせ。こ

のやーきへまねきいれしはどくがいをして

びやうしといひたて。わがたいまうをたつ

せんけいらやく。まじこのいむいむい

るしみ。ともゑのをけがくたばらば。

こ、ちよからんと。たばこひきよせさわ
がぬてつさん。いままであかさぬむほん
のぬぐみ。はじめてきいたるちうだはぎよ
つと。おきくがこぬまよゑねかじときりど
のそとをさしのぞき。あぶくあせるその
うちよ。どくのころのふありをけが。ごつ

どりいきはたえはてたり。河ホウきけば

きくものめうやくく。ともゑのをけ

はこのほどより。ちんじゆのやしろへひご

どのさんけい。アノせんをゑよてこりをとる

こそさいはひ。どくをながしてじめつさせ。

びやうこのていよもてなさん。もはや。

かちうはたいはんみかたよつけおいたれ
ば。いまたからのさらをうばひとり。しや
うぐんけへさしあげ。ほそかはのいへをわ
うりやうせんこと。たなごゝろのうちよあ
りハテ。まさよいまてんよ一ぢやうの
ときいたれりや。あめしあはをるをりもを

りち合あくくハハセセメメ、きかゝるおきくはきりぞのそ

とねさらばこたづさへたちきくとも

—カあらぬちうたはぞくくいさみ。河ハニア

あつぱれたいしやうさうめいゑいちあ
せんをゑへどくながしやはコレくつきよ
うのおんてだて ぜんはいそげじやこのひ

まよと。くだんのうつはをたづさへてか
けゆくむこうへおきくがむつと。上河ちうだ
さんまたしやんせ。ヤアあのそなたは、おき
くじやないか。あんないもなくぶるんりよ
うせんばん。シテくいまのをなんぞ。アイき
いた、でもなしきかぬでもないが。なよは

ともあれおせんをるへ。そんなものをなが
さふとは。マあつけもないことさしやんを
なエ。イヤサコレハ〜〜〜アものでおじやるわ。

△、ものとはなんじやへ。ウンサこれは、サア
〜〜ちうださん。なんでござんをへ。

△、いやさこれは。〜〜チ、コリヤおきへ。

からだわい、キく。このあいだのあまつ
ぎよおせんをゑがよごりしゆる。わかど
の、おみよはどく、じやとおもひ。てんや
くがてらごふせしみづをまこのめらやく
みづのどくをながせといひしをあぢよき
なし、きのまわりしは、だらり、く、と。

まごどしトやかトかトよトいトひトまトあトせトばト 河ほんよママ

わたしといたことトが、なよをきくやらき、
はつつて。いまのやうよまをしたが。おき

よさはらば、おゆるされてくださんせ。ホ、

、、、とえしニやくユをトる。河ホ、ウらたがひはれ

てまんぞく、キく。ちうたはをやくのぞみ

よまかせ。おんさらをはいけんいたしたし。

それ。てうづをよきをつくれれば。きてんも

きくがあさからぬ。あづつの

とよたちよつて。てもとも。ゆらよ。くみ

あーげる。つるべを。ちうだ

がどりあげて。きよめのてうづをむ

すぶあひだよてつさんは。ふくさひらいて

ひもとくく。はこのうちなるおんさらを

そつや。まいふところへ。かくしてばや

くなほしおく。おきくはなんのきもつか

ず。のちはわがみのかたきとも。あらぬ

こころぞ。せひもなき。さあらぬていよ。コリヤ

くおきくイロ 河いねたいせつのおんさらなるぞ。

祿んのためかををあらためそのうへで。り

やうにんともはいけんせん。をやくく

とてつさんがとさしづよおきくがいうや

くおしくベ合ツナギつ、みしいふくさううちモしタきてハ

ふたフシハルをしひらきおん一さらセを。ふくケさ一のうへ

よの一ケまいエづケ、ニよニみニなら一べてハ

三河ハテメんヨうカ、たつタいマごゼん

で。はこのぢやうはをつとよかあつてわた

しがあける。うちのふういんはどのさまの

ぢきよおきりあそばさ。そのうへとくとあ

たしがよんで うけとつてまゐりしは。て

うど十まいそろふてあつたよ。一まいたらぬ。一まいたらぬは。ハテふしぎなど。はこをさがしつあたりをみまわし。たつたりゐたりうろく。まるこそだりなり。てつさんわざとおどろくめんじよく。かほどたいせつなるおんさらをたらぬ。くとい

ふてことがままふか。いよくなくんばをんな。そのほろがいの方があいぞ。え、え、

とはコ、ナコナ、あうちやくものめがウヌ。河ア、

イヤあよじやひとおまぢあされ。も志もどの

ごぜんよ。ぢりのこしてサあるまいもの

でもあい。ソレきく。ちやつとみておじやれ

と。いろよひかる、かたもちかほ河フ、

ほんよさうじや、ごぜんへいて。河ヤアど

こへをんなめ、うごきあがるぢ。ごぜんへ

はッレちうだ。そのほらまるりぎんみせよ

と。きびしきことばよせひなくもおきく

よこ、ろおくのまへちうだはたつていりよ

ける河ヤアをのれだいたんめらうめ。こ、

よちいさらがちんのごぜんよあるもので

ぬをんでもぬをまいでも。たらぬからはを

のれがどが。たゞしまたとばついてうちめ

いだか。サアまつをぐよぬかしをらふ。ナアち

さけないおうたがひ。たいせつちいおんさ

らを。なみしてわたりがわりもぬをみもい
たしましより。これがみへねばわたしがな
んぎばかりじやない。一まいたらいでもと
のさまや。二へいどの、みのちんぎ。モおい
への。たいじよなるわいぢ。このうへのお
ねがひよは。どうぞねんばらしよいま一ど

あらためさしてくださりませ。おなさけ

おじひとてをあはせかこち。なげけば河ヤア

やくよもた、ぬよまいごと。さぼどよおも

は、ソレてばしかくよんでみよ。てつさん

これよてかむとりをると。しやうぎよどつ

かど。こしうちかけウブシ。河サアよめ。アイ一つ。

二つ。三つ。四つ。五つ。ホリヤクまでおきく。

もう五まいはをんだぞよ。コレカラあどがも

う五まい。しやうねををへて、はやくよめキノ

アイナアアイ。六つ。ろくまい。七つ。ひちまい。八

つ。はちまい。九つ。ハア。チセ、ラツト九まい。チどろ

じや、はやくよめ、く。めろくど、こぼ

へるは。もうないか。テモめんようち。なよ

がめんようち。いくたびよんでもおなじこ

ど。さらがたらねばうぬがそつくびうちは

なをよ。サ、たがてんのうちてがある。たッ

しはコノてつさんがむりたとおもふか。ナン

ノマア。さらくむりとはぞんじませぬぞ。と

のさまのごぜんではきつとそろふてあつた
ものが。ここへくるまでよたらぬといふは。

わたしがいんぐわで〜ござりませよ

う。ヲ、そのがてんがいたらば めろ〜と

とこぼへぎと。祢んぶつまをしてくわんね

んひろげと。かたなをすばとぬきはなせ

ば。コレイノコレ、マア〜まつてくださんせ〜

初スリヤどらあつてもころさゑやんをか。くど

い〜あい。エ、てつさんさま、そりやあん

まりどらよ〜じや〜。しぬるいのちは

おしまねど〜うせたるさらのせんぎもせず。

このま、しんではどのさまばかりかをつ

なんぎささるやるが。エ、いどしいわいのふ。

く。このまゝやみくゝ志ぬるとも。た

まゝひはわがつまの。かげみよそうておん

さらの。せんぎをせいで。おこらか。ア、こ

のわけがたつた。ことあふてい、たい。マ

けふよかぎつて三へいどのはなぜ。をそい

ぞ。このよのなごりよいまいちど。かほが

みたい。あひたいわいぢ。あば一のなさ

けよてつさんさま。とゞめをまつてくださ

んせ。どうぞいま一どあのさらの。かどが

よみたい。よみたいと。いまあのむねよ

せまるおもひの。かすくゝを。かぞへたて

く入クリ上ニなげきよくるしむそのありさまめも

あてケられぬ文彌ラトシしだいなり。河ヤア

ちがぼへひろくなかちあぬと。やいばをぬ

けばちはたきつせ。よろぼひまあるをきり

ふせくたふさるおとゞめのかたちニこのよをニはやく

あきのケきくニちりゆくみこそハかケけれ河

まつじやまもかたづけた。まつこのみづは

かつてよくらへと。かたへのゐどへシがる

をうちこみ。ちがたなひつさげせんをの

みぎちあいまたいちいよりちあいづくとちあいじ

ほをあろふそのところへいきせきいでく

るをとうとちうだヤアさてはおきくをてよ

あらいでわかとのもろとも。ごてんを一へ
んたづねても。なかつたこそだうり。あつ
はれく。ほそかはけのちようほうこの
さらがてよいるからは。たいまうじやうじ
ゆうたがひあしア、コリヤ、シイ。おほきなこゑ
を、をるやつキメじやあい。ソレ。いまよも三へ

いめがきたりなば。おきくをころしたみの
いひぬけ。そのさらはやをり九つ。この一
まいはみがしよぢをると。ゑんさきの。て
ぬごひとつておしつゝみ。くわいちうをれ
ば。ときルあやちうしセやちこちずえよかぜあれせい
どうしてね。つるべのうへよもへあがる。

いんらんたるぢあんとわのひかり井づつ

のちかよりおきくがこゑ。河ノウウまうして

つさんさま。そのさらをいまいちど。どう

ぞよませてくださいさんせと。きくよりちうた

はきやつとばかりノウウこはやこりやたま

らぬゆるせくもあな、きこゑあどを

もみずいてよげてゆく。合、さーも

のてつさんぞつとみのけもたちあがりお

くのまさじてゆかんとまれどうしろが

み。ひきもどされてたちくく

合、やなりーんどらそらかき

くもりよはかふ。ふりくる。あめのあし。

いづくへよげんもあんのやみ。ほろがくわ
かぬしりよりのわざ。てつさんはたゞぼろ
ぜんとあきれたてたる。井づつのもど
ありあよかはらぬ。おきくがまがた。か
げの。ごどくよあらはれいで。のふうらめしやてつさんさま。

そのさらをいまいちど。よみあらためをこ
ろされし。うらみはたれよむくはふぞや。
一つ。二つ。三つ。み、をつきぬくまうり
やうの。こゑをあるべよきりはらへば。か
きけを。井づつ。のうへよ。くはつと
もへたつもうくわのけむり。むせんでてつ

さんかつばとふせばメリヤス早メル八つ。九つ。ハアハかち

しやとさけぶころ。ねあやうじよひいいて

びりぐぐにはのきぐさもどうようし

あめは三重あきりよ。ふりあきる。かる

をりしも。ふちせ三へいたけつねは。あゆ

くんのごきげんうかひと。ひろそでかつ

はたかあした。ちうきよころもみちか

さ。よこぎるかぜよとられじとあしもい

きせきあゆみくる。むかふよてつさんあ

めよひらうち河コリヤどらうじや。おめでも

まふたか。コレまきをつけられよてつさんど

の。河ヤア三へいどのか。マまようこそおいで。

いゑんにこたへケル河ハテこゝろえぬ。みれば

あれよおいへのちよろぼうからゑのさら。

かぞふるこゑはまさしくよよろぼう。こゑ

ばかりでかけのみえぬは。ヨ、がてんがゆく

まい。十まいそろふたあのおんさら。一ま

いぬまんだとがよよつて。おきくはそれが

しがてよかけたあい。ヤ、ン、ちんど。スリヤアノ

によらぼうはころされたか。ハ、テ、ナ。たとへ

おんさらがうせたかとして。ひやらじやうせ

んぎよもおよばず。りふじんよきくをてよ

かけ。さほどのことをおしつゝんで。それ

がしをいなしたがるは。ム、ウ、こりやてつさ

ん。そのほうよせんぎキメがあるわい。ヤアをで
つちめチス。ひやうじやうもへちまもいらぬ。

さらがたらねばあづかりーなんぢもどが
をんちめどどらざいのがれぬ。かくごひろ
げどぬきかくる。てさきをまつかどチス。河テハ

こゝ、イヤサもがきめさるぢチス。せんぎのか、

つたあをやまてつさん。ほねをひーいでも
いはさよやおかぬ。むねの一もつ一々のこ
らぢサ。くくはくじやう。くどシをそ

ばせをつてつめかくれば。さーもふてき
のてつさんもふところだいじやうぢつイロ
くみがまへ。みてとる三へいさてこそおん

りかへれば。たちげにけとばし。だいおん

上。よろこべによろぼ十のつごふはこ

ころよと。てつさんがふところより。さら

とりいだし。つまがかたきと一ときにおも

ひ。あれよとつきこむかたあ。さあよほさ

れてせてん八とらむくひはをやくだんま

つまこちよくこそ。みへみけり。ひ

とまのうちより。とも急のをけ。あ

らのやうをはアレよてきく。それがしふた、

びよにいでなば。おきくがまいはこのひめ

ぢの。十二あやごんげんのみやるのうちへ

くわんじやらせんと。のこるかたあき

じんあいの^ねおほせよ^はつと^ねありがた
 ちみだ。^ふいまのよまでもかくせ^えあきを^く
 なひこちの^みやしろよ^きくがみ^やとて
 ちよたかき。ふで^に—うつせ^しさら
 やしきこせきを^ゲのこして^い—^ねた
 いづる^いづる

平假名盛衰記

(逆櫓松)

まくら
けいが
かりの
出と知
らるべ
し

フシハル つまこふ^あかの^はてならで^あち
 んぎを^ぐりのらみ^やまよ^くらうを^るを
 長地
 みらきごとを^かぞかく^おふで^がみのゆ^く
 ゑ^いいつ^までは^てし^あよ^はが^た。^{ツナギ}ふく^い
 まに^きて^こや^いは^かど^よある^し

のそんじよそこと。まつをめあてよ。たづ

ねより。ごめんなりませよ。まつゑもん

さまはこなたか。おちを志るべよ。はるぐ

たづぬまいつたもの。おあひなさをきてくだ

さつたらかたじけなふござんじよ。もの

ごしの志とやかさ。まつゑ

もんどのよあひたいとをちごがきた。ろく

な。ことではあるまいと。あやをきしらで

をんちぎのはやりんきまる。ことばのはし

けうがるたしちめや。まつゑもんよあ

ふてあぬじやといふてもりんきまるか。そ

れほどきづかひあらよびこんで。あはせぬ

さきよ、きいたがよいあい。や、どなたじや
ぢよちう。どつからござつた。まつゑもん
うちをりませ。ゑんりよせずとトント、はい
らゑやれ。それはまあく。おうれしやど。
かさよきをててうちよいり。おまへがま
つゑもんさまかおちかづきよなければ。お
かほみしらふやうは。なけれども。なけれ
どもありや。あせござつた。サアまうし。河
よがゑるべよならふやら。せつしらまつし
ままつゑもんこ。つちまつとかいたおひづ
るがゑんよなつて。チ、そんならこなたは
おほつの八ちやうで。またあどのつき二十

八にちのよさ、^{アイ}おこさまをとりちがへた
 ものでござんを。^ハだうりでみたようなかほ
 じやとおもふたこと。^コこれはゆめかうつゝ
 かい、^ノのふおよろこべ。^セつちまをとり
 ちがへたひやとやい。^ハこのほうからもゆ
 くらをたづねもどくへとりもどまはづな
 れども。^ハちよを志やうこよ。たづねてゆか
 うてがかりもなく。^コちいてばつかりをりま
 した。^セそのかわりよはとりちがへたそつち
 のこどもしゆう。^コうのけでついたほどもけ
 がさせぬ。^セむしばらいちどいたませずむを
 めがちが。^ハたくさんなゆる。^セくひものは

参の巻 廿二

下の親父
と母との
交代に榎
松を待つ
呼聲を區
別して語
るべし
三絃も又
之れに應
ずる様注
意肝要な
るべし

をまらうあやいのふ。マ、マ、マ、さまのせわしな

い。このおきいがちやつきりちやつと。つ

いいふてをむことかいな。まらうし。このつ

ちまはなぜおそい。おつきのあゆうがかど、

ちがひはなされぬか。このつちまはなぜお

そい。マ、わがこは。いかよ。まごは。い

かよと。たちかはり。いりかはり。かどを

のぞいつきい。ひつ。そ。ろよよろこぶ

おやこのふせい。おふでが。むねよやきが

ねさを。いまさらなんどへんどうもなくも

なかれず。さしうつむき。あばらぐことば

も。なかりしが。おねがひまらうさねば。

かなわぬわけあつて。河はちをつゝみ。めん
ぼくをしのいでまゐりしが。さうおよろこ
びなされては。きがおくれてものがまうさ
きぬガマア。またよいいてくださんせや。ちんだ
ながらよ。おしあつめ。あらためてまうを
もあぢきなきそのよのさあぎ。てばしかふ

よげかくれなされた。おまへがたはじゆん
まいのくどく。このほうは。ひとりはや
うにんなり。をどことてはあるよかひなき
としより。よぐるも。かくれるもころよ
まかせや。とりちがへたそのおこは。その
よよ。あへなく。なり。たまふと。きいて。

下の文句中若君は若らばいと
うばいと
君はばいと
とられと
うの字の
省ぶかれ
し如きは

一の巻發
音の辨中
略音の件
に述べし
如くうの
音の略さ
る律に依
れるもの
と知らる
べし

がれいでたれども おつかくるぶーのおほ
ぜい きはをんくわいとふせいでも なよ
をいふも らうじんのいひがいかくうちじ
よし わかぎみはばいとられきもきやうら
んのやうよなつて ちよちうもほつたらか
し。だいじのわかぎみとりかへさんとかけ

まある。つきなきよはのをかくれ たづ
ぬ まはる。さ、がきのかげ サアこゝろよこ
そあれと とりあげてみたれば かなしや
おくびが もふなかつた。よくくみれば
わかぎみでない。あやうこはこのおひづる。

河さあぎのまぎれよとりちがへしあ。さて

はわかぎみのおいのちよつゝ、がなかりし
ど。いちどはあんどせしが。かはりをもど
さねばとりかへされぬわかぎみ。もともと
ひとりもどをたねよある。ひとのだいじの
ことをころし。なよをかはりよわかぎみをど
りもどそふ。かなしひことをあやつたとそ
れをくよやみ。あゆくんのちよちうもその
ざで。はかなくなりたまひ。かなしみやら
くるしみやら。わたしひとりがせたらおふ
たみのるんぐわ。このおひづるをあるべよ
てたづねまありしは。おはてなされたお
このことはあきらめて。このほうのわかぎ

みを。もどしてくださるゝやうのおねがひ。

だいじよかけておせわなされたと。もの

がたりきくよつけ。めんぼくないやら。か

なしひやら。あぢきなきみのうへを。おも

ひ。やつてたべ。おやごごさまと入かつは

と。ふて。なきけば。ぢいは。こゑ

こそたてねども。なんだをおいよかみませ

てのんどよッ。つまればむせかへり。みもろ

くやうよ。なきければ。むをめは。こゝろ

も。みだるゝばかり。むな。きおひづるて

よとつて。やれ。つちまつよか。なるは。

ゆるべのゆめよ。まぢく。まへのと

さんみだかれててんのうじまありあやる
 とみたは。ひこそおほけきてごのさんね
 んのあやうつきなり。めいにちのけふのひ
 みたより きつげでこそありつらん。そ
 れとはあらぬほんふのあさましさ。けふは
 つきてくるか、あまはもどりやるかどま

つて。ばつかりいたものを。おほきなさい
 なんよあふておひづるよかいたせんもな
 い。これが、なんの、一せ、あんらく。じゆ
 んきいもあてよはならぬくわんおん。さま
 も。ふがひない。うらめじや。なつかしや。
 ああきこのことがゆめであつてくまかし

下の歌
 の調にい
 かはどあ
 なげうな
 られたど
 てと原本
 にもあれど
 も斯る時
 は調かな
 言葉使な
 らざるを
 思てても
 誤りし候
 は調之
 に誤りら
 れかし

下のお筆の詞にかほごおなげきなされたてと原本にあれども斯る時は穩かな言葉使ならざるを以てなされてもと改めし味は讀者之に鑑みられかし

と。かほよあてだきしめて。こゑをはかり
みもだへし。ぜんご。ふかくよ。あき
いたる。河むをめほへまい。なけばつちまが
もどりやるか。よまへごといやふた、びぼ
うぞよあはれるか。かねてぐちなとちい
しかるをどうきいてと。いふことばよをが
りつき。河ヲ、そきく。からまらをわたしも

おちごじやが。ぐちではをまぬ。ちいさま
のおつゑやるよほり。モいかほどおなげき
されても。つちまつさまのおかへりなされ
るよといふでちし。ふた、びあはる、といふ
でちし。さつぱりとおぼしめしあきらめて。

下のアレ
は天を指
す心持に
て語るべ
し

下のブル
くは即
ちかぶり
ふる符号
と知らる
べし

あり、あさけもあるわい。志ゆくんのわかぎ
みのおいやるからは。それあらぬまんざ
らのいやしいひとでもなさそふあ。この
おきは、だい〜かぢづかをよつて。その
ひぐらしのみなまきども。アミアレ、おてんたら
さまが、あやうじき。だいじよかけておいた

そつちのこ。みせう、か、いやみせまい、
〜。みやつたらめだまが、でんぐりか
へらふぞ。ひとのこをいたあるは。こつち
のこをいたはつてもらふかはり。たいてい
だいじよかけたとおもるか〜
そんならまた、あぜたづねてこぬぞ。へら

ぞくちぬかそふが。たづねてゆかうも。
あんも志るべのてが、りはあし。そつち
よはおひづるよどころがきがある。けふは
つきてきてとりかへるか。あまはつれてき
てくださるか。あふたら、あんどれいいは
ふやあけても、くれても、まつては、かり。m
詞

コレこのふままをみおき。かあいやつちまが
げからよかふなといふをきくわけぞ。む
りよかひてみるてらさんがい。もつてある
いて、うれしがつた。およのねんぶつよが
き。げほうどの、あたまへ。はしごさいて
さかやきそるおほつる。ふぢのはあのおや

まもかひをらず。げぼうどののゑをかふ
たは。あのやうよひげのゑらがよなるまで。
ちがいきしをるずいさう。およのやうよ
たつしやで。かねもつて。せかいのものを、
がきのやうよはひかましをらふ。きつさ
うじや、めでたい。もどりおつてみたら。

さぞよろこばふとはつておいてまつたよ。
おもへばはしごは、げぼうあたまのくだり
さか。およのそばよはひつくばふ。がきよ
なつて、おねんぶつで、くたをかるやう
みちりおつたか。おもへばおもひまわを
ほど。みもよもあらぬ。ようだいそれた

めよ、あはされたなあナキ。何それよなんじや。

おもひあきらめてわかぎみをもどしてくだ
され。ちやうよんでこそあれまごのかた
き。くびよしてもどさふぞとつたあが
る。のふかぢしやとりつゝおふでをおし
のけはねのけ。あんのゑやうじさつとあ

くれば。こはいかよ。まつゑもんわかぎみ
をこわきよかいこみかたなぼつこみりき
しだち。おふでおどろき河ヤア。こあさんは、

ひぐちの詞サイキル コリヤ〜 おんあ。ム、ムウきこ

へた。さいぜんかへりがけ。あものひのく
ちで。ちらとみた、ぢよちうよあキメ。わかぎみ

はみがてよいつてきづかひあし。いふてよ

ければ 聲ヒソヤカ みがなのる。サ モドル がてんか。かならず

ひのくちを。ひぐちなどとそ、ういふまい

ぞと。めませであらせは、うちうなづき

あづまるをんな、きかぬぢい。まつゑもん

でかしたな。さつきよからのもやくやね

らまはままい。きいたであらふ。そちがため

よもこのかたき。そのこびつちやつたく

よきりきざんで、をなごよわたせ。いや

そふはいたままい。なぜいたままい。サア

それは。サアそまはとは、まつゑもん。エ、み

づくさい。あゝい。いはひでもあ

きた。おのれがたぬをわかぬ。つちまがか
 たきじやよよつていたさぬぢ。そのこんじ
 やうではぢいがまゝよもさしやせまい。も
 ふやぶれかぶれじや。おれがいふやうよせ
 ぬからは。おやでもこでもなんであもい。む
 をめそこらかけまわつて。あかいものおほ

ぜい、よんでこいよきをせつたり。やれま
 てによらぼら。ひとをあつむるまでもあし。
 おやぢさま。どうあつても、つちまがかた
 き。このこそぞんぶんよなさるゝか。くど
 い、くゝあい。ぜひもなし。このうへは
 わがなもかたり志さいをあかしてうへのこ

参の巻 四十八

と、わかぎみをおふでよいだかせ。あや
 うざよなほし。ごんしろうづがたかい。な
 ろがたかい。イヤサづがたかい。てんちよと、
 ろく、なるいかづちのごとく。おんをがた
 はみずとも。さだめて。およよもき、つら
 ん。これこそあさひさやうぐん。よしな

かこうのごきんだち。こまわかぎみ。かく
 まうをわれは、ひぐちのじらうかねみつよ
 と、いふよおやこはあらしきもとられあきれ。
 はてたる、ばかりなり。ひぐちおふでよ
 うちむかひ。さてくをんちのかひぐくあ
 く。あやくまでごせんとをみとくるあ

んめうさ。やまぶきごぜんもおもひよらぬ
ごさいご。おんみがち、のはいともあへち
くうちじよあたりとち。ちから おとし
おもひやる。それよつけてもかくてある。
ひぐちがみのうへさぞふしん。わかぎみ
のためよはおほおぢながら。たゞのくらん
どゆきいへといふ。ふだらうじんをちうばつ
せよとのぎよいをうけ。かはちのくにへ志
ゆつちんのあと。かまくらせいをひきうけ
あはづのいつせん。あやまりなきおんみを。
やみくゝとごしやうがいとげたまひし。
わがきみのごさいごのうつふん。まぐよか

けいり。ひといくさは。ぞんせしかど。

おもへば。おもきあゆくんのあだてだ

てをもつて。のりよりよしつねをうちどり

ぼらくんよたむけたてまつらんとサこの

いへよいりむこし。さかろをいひたては

や。かぢはらよ。ちかづき。合大ノリ

よしつねがじよらせんのせんとらはまつる

もんどこどきはまる。をつつけほんるをど

ぐるやらよあるよつけ。このわかぎみのこ

さいしよは。いづく。いかが。ならせたま

ふと。ころくるしきをりもをり。さいぜ

んよりのものがたりしやらじこしよきくよ

つけ。みれば。みるほどおも。やつきたま
へども。まがひもなきこまわかぎみ。さて
は。おもひまうけぞねがはずして。ところ
こそあれひこそあれ。そのよいつしよよと
まりあはせ。とりかへらきてたまかりたま
ふわかぎみはごうんつよく。ころされしつ
ちまつは。ひぐちが。かりのことよばれ。
おんみがはりよたつたるはふたこゝろなき
それがしがちう志んの。ぞんねんハハハ
てんのめうりよよあひかあひ。ちをわけぬ
こがことなりて。ちうぎをたてしそのうれ
しさ。なんよたぐひの。あるべきぞ。これ

もたがかげ い おやぢさま い 氏 氏 氏 氏 こならぬわれを
ことなされ。おやならぬわれをおやとをる
つちまつ。おんもあり ぎりもある。 い よそ
ほかのこととりちがへてのかたきならば。
そこよごかんよんなさきふが。によぼうが
よしとまふをとも。そのかたきあんおんよ
おくべきか い おやぢさまのおんなげき。わ
れもふびんさは い みよせまれ い 氏 ども。 い あひて
よとれぬ志ゆくんのわかきみ。ゆみやとる
みのうへよはねがふてもなきおんみがは
り。ぢい おやのちをあげたつちまつ。そ
のちをあげたもとはとへば。わたしをこ

よなされし おやぢさまのごかうおん。ち
ひろのうみ そめいろのやま。それさへご
おんよはなかくくらべがたけむと。まだ
そのうへよだいおんある志ゆくんのわかぎ
み。まごのかたきとてぢいさまよきらされ
うか。わがてよかけて志ゆうころしのあく
めらが。とらむふか。をぢはみよしのひ
とほぶし。ばつせよ。のこるおこそはづ
かしけれ。ごらつふくの かぞくおんな
げきのだんく。まうーあげふやうはなけ
れども。おやとありことあり ふうふとあ
るそのゑんよ。つながる、さだまりごと、

おぼしめしあきらめて わかぎみのごせん
どをみとげ まだそのうへよわたくしが。
ぶしだらをたてさせてくだされば。 しゃ
うぐせ のごころおんコレおコレくく
きくわけてたべおやちさまと。 みをへりく
だりことばをあかめ ちうきよこつたるひ
ぐちのふせい。 かねひら ともへがかしら
をふまへ。 きそよつかへゝゑてんのう。
そのぞゐいちのもの、ふと よよ茶をとり
しもことありあり。 ごんしらう はたとて
をうつて。 河そふじや。 さむらひをこよもて
ばおきもさむらひ。 わがこの志ゆじんはお

れがためよもご志ゆじん。サアくむことどの。

おてあげらまいマクハミ。ふちだまめうり

ふた、びひたいよなつて。かしきまるほら

もあり。うらみものこらぬ、くやみもせぬ、

あきもせぬ。むをめ せいだーてはやらま

た つちまをうんで、みせおれ。さてはご

どく志んまるりしかおおかたじけなし

やトうれしやとト。たがひのこトろほどけあト

ひト。せんりのちだトのうかれふねト みちとみト

つけしごとくよて、よろこびあふこそト たト

うりなりト。おふでうれしくわかぎみをト、ひト

ぐちのじらうよてわたしト、そこよトかくト

ておはをきばこのおこよきづかひあしウハらウハ

きしづみはよのならひウハ わたしがいもうとウハ

このつウハのくウハによウハつとめほウハうこウハふウハをウハるウハときウハ

くウハそウハきウハがウハゆウハくウハゑウハもウハたウハづウハねウハたウハしウハおウハほウハつウハ

でウハうウハたウハれウハしウハおウハやウハのウハかウハたウハきウハうウハつウハてウハもウハらウハじウハ

やウハへウハたウハむウハけウハたウハしウハあウハよウハやウハらウハかウハやウハらウハこウハとウハしウハ

げウハきウハあウハたウハしウハがウハみウハのウハうウハへウハはウハやウハおウハいウハとウハまウハやウハ

たウハちウハあウハがウハれウハはウハそウハふウハきウハいウハてウハとウハめウハるウハもウハぶウハてウハ

うウハほウハうウハ。えウハ、ざウハんウハねウハんウハあウハがウハらウハわウハきウハらウハのウハみウハぶウハ

んウハ。ちウハかウハらウハよウハなウハらウハふウハとウハもウハえウハまウハうウハさウハぬウハ。こウハかウハ

つウハてウハよウハおウハいウハでウハなウハさウハれウハ。むウハむウハこウハどウハのウハ。をウハてウハもウハ

ぎウハどウハうウハあウハ。せウハめウハてウハ二ウハ三ウハちウハあウハーウハやウハをウハめウハ。ちウハ、そウハ

れく。とこさまのおつゑやるとほりマか
うこころがとけあへば。はじめ。ちんのか
のとまうしたほどけつくなごりあり。ひら
よとめてもとまらぬき。ちみだよ。くれ
ぐ。わかきみを。たのまる。のたのむの
といふうちかいの。ほんるをとげてまたお
いで。さらばくとかどおくり。みおくる
たもとみかへるそで。おふではわかれい
で。ゆく。河さてく。ぶけよそだつた
ぢよちうはかくべつ。むをめ。いまからあ
れみあらへよ。こりやこよ七めんだうあ
おひづるがある。どこへなりや。やつや。

をて、^{ヘタル}志まへ。おやぢさまそれはあんまり
おおもひきり。せめてぶつぜんへおほしか
うはなもとり。さかさまながら、ごゑから
なさつて、とらしやれまゑよ。ア、さむらひ
のおやよなつてみれんぢとひとがあらひは
せまいか。なんのたれがあらひまじよ。ハ
うれしやく。ありやうはさつきよからさ
うしたかつた。むをめなんどのぢぶつへひ
をともせと。てよどりあぐる。おひづるの
せんねんもいかさうとおもふたよ。たつた
みつ、で。おむあみだんぶ。つちま
つ志やうれうとんしやうぼだい。むこどの

ござれむをめもこいと みればみかわをか
ほとかほ。 ともよあみだよ。 くれのか
ね ごうく とこそ きこゑけれ。 はや
やくそくの たそがれとき またろくをさ
きよたて とみさう九ろさくさんにんづれ
かどぐちからようしやなく。 まつゑどの

うちよか。 やくそくのやほりまるたどた
かよばはり。 まつてまかりおりまをよ。
身みがる輕こしらみ拵へとんでいで。 ことたいぎく。 は
いつてたばこでもまるらぬか。 いやくた
いじのいそぎのごよう。 せいだしてあ
とでのたばこ。 まつほりやまづ。 やりませう

のた、かひはてきもみかたもはじやうのは
たらき。かけんとおもへばかけおひかんと
おもへばひくことも。じゆうげよみゆれど
もふねといふものはまたかくべつ。知ての
とほり志ほよつれ。かぜよ。さそわれろ
びやうしたて、おを時。は。

ゆくじやもはやけ

れど。のりもやさんとおもふやきは。おも

かぢとりかぢのふうはをかんがへ。

やりかぢつかのての内ふねをくるりや

もやのじやく。おしまあてしぎもやま。

それさへさをーほひく志ほよもぢ

かふて。ふねよあやまちあるときははちま

んからくのうきめをみいよ。あかあ

い。さいしよふた、びあはれぬじやな

いか。いがよもそふじや。其うきめをみま

いためのこのさかる。サア其どものろを押た

く。おつと心得やつあつし。やつあつし

く。さんだんばかり。こぎいたを

合わケテキニキエリテ。サアから船をこぎよせて。おい

つまくりつた、かふるち。はかりごとよの

せらる、か。てきよあらてがくははるかスハ

まけいくさとみるどきは。船おしまあす

までもなくコレ此さかる押立て。富藏がてん

かがてんじや やつあつこし前全術ノ事シシやあつこ

くく。もとの處へ。合こぎもど

を。まきをうかがひとみさうくろさくかい

おつとり。松まつゑもんがもろひさないで。う

ちたふさんと右左みぎひだりよりはつことうつ。こ

ろえたりとおどりこへくがへひらりや

びあがればさんにんつぐいて。かけあがり。

河ヤアひけうなり松まつゑもん。合おのれきそが

らうどら ひぐちのじらうかねみつといふ

こと。かぢはらどのよくごぞんじあされ。

さかろのけいこよことよせて。からめとり

つききたれとわれくよ。おほせつけられ

た。じんじやうよろうでまわをか。うちのめ
してなはかけふか。うでをまわせとのし
つたり。ひぐちからく。とらちあらひ。

合ノリ 推量すゐりやうまたがわぬ上は。何をかつ、まん

合ロボウリ あさひ志やうぐんよしなかのみうち

よおいて。四てんのうのぞゐいちとよばれ

たるひぐちの次郎かねみつ。おのれらふぜ

いがからめとらんとは。まものつけたるい

ちばんいかり。ありのひぐよことならぞ。

ちらばてがらよからめてみよ。合ヤア志

やらくさいからげんあどでいへとかいふり

あげ。なぐりたつるをこと、もせず。かい

をれまつよそのちとせはあらねども。わが
みにつらきうるむじやう。おいはとま
りわかきはゆく。よはさかさまのさかろ
のまつとくちぬ。そのなをふくし
まに。ゑだはをいまにこのこしける

菅原傳授手習鑑

松王下屋敷之段

八へ一へ。あ、のへちかきかた

ほどり。あらたにたてしひとかまへ。

にはのたちきもおのづから。へせあるじよ
つれていろつやもいまを。さかえ
とまつわらがこゝに。すまるもおくふ

かき^{あし七。氏、}ころを。 ^{めたれか} | ^{さよるら}

ん^あ ^{合ニ。おケニ。て、クンケリ} おなじときはに^い

ろか^つへぬ。 ^{ニ。ル。氏} によらぼう ^{ちよがみどり}

あの^{定間。ホニ。氏}。 ^{こたらうつれてひそやかに。} ^ひ

とまの^{フシ}ふをま^一 ^{おしあくればおん} ^{いた}

あ^上や^一 ^{あやうぐの} ^{みだいどころは}

あのほどより^{ニ。氏}。 ^こ ^よ ^し ^の ^び ^も ^よ ^の ^ひ ^や

を^そ ^合 ^た ^の ^む ^こ ^か ^げ ^よ ^あ ^め ^も ^り ^て

う^ち ^し ^ほ ^れ ^さ ^せ ^た ^ま ^ふ ^よ ^そ ^ち ^よ

はこ^ち ^た ^よ ^て ^を ^つ ^か ^へ ^さ ^ぞ ^お ^き ^つ

まりに^ご ^ざ ^り ^ま ^せ ^う ^ご ^き ^う ^く ^つ ^あ ^こ ^の ^ひ

とま ^ひ ^る ^は ^ひ ^と ^め ^を ^ぞ ^ん ^じ ^ま ^し ^て ^は ^し

ぢからさへだしませず。七 さだめあきよと

いひながら。一 じやうじようさまやわかぎ

みさまに。二 おんひきわかれ。三 あされてよ

り。四 きたさがの。一 おんかくれが。五

それさへひとにもれきこえ。あやふひとこ

ろをやうくと。をつとがこれへおむかひ

まうし。またもやあびしいこのおすみか。

さりながらやがてめでたふおふたかたさま

におめもふじ。マアそれまではおきながふ。

かちらずきなくおあんじあふ。じせつを

おまちあそばせと。一 まうしあぐればみだ

いどころ。二 けうかむあんだを。三 とぶめた

河モ

まひまひ 河ヲ、やさしいそあたのお、ろざし。

しんでもあすれぬうれしいぞや。 セよしあ

きひとのさかしらよて。 つささらへよまで

なりたまふ。 ねつまのゆくを急わがこのことい

つかたときあする、ひまもあふ。 あぢき

あき よにしばらくも ね をしからぬいの

ちあがらへるも。 つつくしにいごさるわがつ

まや シかんしうさいよたごひとめ。 あふて

しにたいあつかしい。 のこのあたらうがお

もざしの。 にたとおもへばあほさらに。 つ

あひたひわいのとばかりにて スエテかこちた

まへばおだらうりや。 ともにしほるゝそて

たもと。じぼりかねたるをりからに

びじやうじのおんいりよよばはるこゑ。

まつとおどろくによろぼうみだい。ともに

とむねのあたふたとひとまへかくをあひ

だもあく。はやげんくはんへたかぢやう

ちんじゆうのゑくあうをかたできる。す

おらのいろのはあだより。はあたか

ぐとじりきたる。合しこへらのけら

いあゆんどらげんばじやうせう。ヨリむじ

とおしあほる。かくせしらせにあるじの

まつあう。びやうくにあやむひたいきは

おしてじづくいでむかへ。詞やあれ

はく。いじやうしやあつてげんばいの。
ごくらう千万^{マン}。びやうちうなればりやくい
はごめんくださるへしや。てをつかゆれば
一^イなるほぐ^ホ。びやうちうなれども

し。いこうよりあふせつけらるゝそのこ
さいやいつは。せんたつてよりゆくゑしれ

ざるかんさうさいのありが。こんにちそに
んのものあつて。たけへげんざうといふや
つ。きたやませりうのさとよひつだらうしあ
んによをわたり。わがこととしてかくまうよ
しがそれにつき。いまだかんじうさいのか
ほみしりしものなきゆる。そのほうにけん

ぶんのやくおふせつけらるゝ。いよくか
んしうさいにさうるなくばくびにしてじさ
んせよ。ほうびにはそのほうがかねてまう
しいだせし。びやうきほやうのねがひおき
きやうけくたさるゝ。またびやうきほん
ぶくじだい。はりまのかみになされふやゝ

ハ、ハ、イヤモそりやはやありがたいしゆじんの
げんめい。ハはやくようるをいたされよど。
いふをひやまにほようぼらがたちき
くみくにうちよする。をづこのこころし
らなみのむねにたぶよふばかりなり。ま
つわらはつとかしらイロをさげお。ありがた

きぎよゐのおもむき。まつあうがいへのめ
んぼくヤモこのうへなし。さつそくせうちつ
かまつる。がびやうちうなれば。ばんじの
てくばりころにまかせず。そのげんざう
とやらいふやつ。それがしうつてにむかふ
をもれさかば。かぜをくらつておちやらん

もはかられず。アイヤク。そのぎはちつともさ
づかひなし。たかざらうにんのやせすまる。
やうまくもぎやうくし。アイヤさうでは
ござらぬ。おそれおほくもしうのうのこ
ゐせいをもつて。ごせんぎきびーきかんし
うさいを。かくまうほどのげんざうヤメた

んチヌはならぬ。なるほど。にげうせなばあ
 れレくがおちど。さやうでござる。きでん
 ごくらくにはさふらへども。ねがはくばよ
 のうちに。むらのでぐちへくみこのごよう
 る。いかさま。しからはおれよりせつーや
 はなにかのてくばり。さあらばみめいにと

うだらいたさん。ばんじはめうてう。ご
 くらうせんばんと。たがひニにもくれい
一しきニだいに。ゆうニくとして。たニち
一かへる。あどらうちながめまつわうは。

なにかこゝろにひよしあん。あくる
 ふすまを。まちかねて。ちよはをつとのそ

ばによりイロ いね コレまうしいまのじやうこのや
うすでは。わかぎみさまのおんありかた
かにそれとしれたれば。うつてのゆかぬそ
のさきに。ちつともはやふこのうちへ。お
むかひまうすごようゑをど。せりたつに
ようぼう。いね あさにつれるよもぎ

めうくぢ。このまつわうがしよぞんのほぢ。

そのほうはよもじるまい。きたさがのか
くれがより。みだいをうばひかへりーはか
んーうさいのくびもろともしへいこうへお
めにかけ。くわんゑのみとなる。いへのさ
かえ。エ、スリヤみだいさまをおかくまひまう

ひごろからのいつてつゆゑとあきらめて。
わびするじせつもあるふかど。あけくれ
おもふにようぼうのころにひきかへ。
いかにしゆつせがしたいとて。だいおんあ
るみだいさまや。わかぎみをめしやつてあ
たさふとは。おまへはおにかじやかいのふ。

コレみちにそむいたてんばつは。一 おまへ
ばかりかどがもあい。こにむくわいでなん
どせふ。 ニ ぞうぞころをどりなほし。お
ふたかたのおともして。つくしにござるし
やうじようさまへ。 ニ おわたしまをしてとも
ぐにおちからにあつてたへ。 ヤ おがむわい

のどてを ね あ は せ おつ とをお

もふしんじつ の あみだに ま ごと あ ら

は せり まつあらは せ らあ

ひ い らざるへり お やきやうだ

いのゑんきればおんもあぐまたぎりもあし

ひかげものになみだをかけ。せがれのし

ゆつせをおもはぬばかもの。ひぎひたうも

わがこのため。ここにかへるたからはあいわ

い。 ノウなさけあい。それほどわがこをおも

ふのはみだいさまもおなじこと。 一 ひとの

あげきをよろこんで。しゆつせしたとてそ

れがまあ。 あんの。 めうががよからふぞ。

みのゆくすゑをおもはずかと。いさめ

なげけば河エ。またしてもよまいごと。

むゑきのくりこともれきこえ。みだいをに

がさば一だいごと。かけゆくすそをどむ

るにようぼう。じやまするなとはねの

けつきのけ。ひとまのうちへいりにけり

はつとばかりにまようぼうは。

なくもなかれぬみのせつなさ。しばした

えいりエテ。あたりしが。やあつて

かほをあげサ。さてもケノ音くあさましや

としつきつれそふをつとのころ。あれ

ほぞまでにあくしんの。あろふやうは

なけれども。わがこのあいには。うば

われて。おんもぎりもうちわすれ。おに

でもならぬだらうよくしん。から

いふころやつゆしらずおいたはしやみだ

いさま。われくふるふを。つる

よ四合はちかつくしらやおもふてござるをだらうよ

くに。どのかほさげて。みだいさまへこの

よでおかほが。あはされふ

をつと、ひやつでないしよろこ。まうし

わけにじがいして。あのよでおわびをま

うします。おゆるされてとみを。ふるは

しぜん中フシごもわかず。なきるたり。やう

くくにニなくめをぬぐひイロ 河ヲ、それ

よ、とてもなほらぬをつとをあくしん。な

んにもしらぬこたらうまで。 ニともにあく

じをみならはせ。 一ひごふあさいごをさせ

ふより。 一しよに つれてして三づ。 ニせ

めてはごせのたよりども。 ニまたひやつに

は。 ニこたらうが のこのよになくばまつわ

うどの。 ニころもをれてほんしんにた

ちかへつてくださらば ニしんでもうれし

う、 ニおもひますと。 一いましぬるみのかくご

にも。 ニをつとをおもふあ 一あ ニろねのは

てしなみだに ル九つの カかねは ワわが

このとこのかず ちむむばかりのうきお
もひ むしがいらすかおくのまより

おコレからさま。おくにござるおきやへさま

が。よんでこいとおつしやる。はやふく

とよねんなき かほみるよりも。かち

しさの。なみだのみこみ。くで

おコレおたらう。こくへおじや。こくへく

やひきよせて。おコレおたらう。いまこのを

くがいふことよをよろき。や。あのおくに

ござるおかたはの。とくさまかくさままた

そなたのためにも。だいじのくおしゆう

さまもどらせん。そのおかたをどくさまが。

ころさふといふおそろしいころ。モウさ
うなつてはこのは、が。どうもいきてはゐ
られぬによつて。は、もおともをするはい
のふ。ガそなたはまた。と、さまがかあ
がつてくださつたら。おとなしうしてゐや
るかやと。一おさなごころをひいてみる。

むりやうのおもひさよまきこが。河イヤクそん

なこわいよ、さまどいることいや。か、さ
まがしなまやるなら。あしも一ツしよにし
ぬわいのふ。コ、よういふてたもつたくの
ふ。いやといふてもをつとのため。ころさ
にやならぬをき、わけて。しなふといふお

あろねが。いじらしいわいの。く。こ
のことがしんだときいてなら。あくにんなが
らまつあうどのさぞ。ほいなかるかなしか
ろ。かういふことのあるふはしか。さくら
まるどののぼだいに。こしらへおいたこ
のはたが。わがこのためにならふとは。

かみならぬみのしらはたにウエニサーニ兵ウしるす六じ
のウツサエケぬツネウ。エケウニめうごうは。せめてウエニこのお
のみちしるべウエニサーニ兵ウまよはぬためリウとめをウとぢ
てウ。ようゐのくわいけんぬきはなしすウで
にかうよウとみへたるうウしろウにウ ウヤレはや
まるなとひとまより。七みだいのおんてを

しづく。しやうざへなほし。てをイロつ
かへおおそれながら。みだいさまは
じめによらぼうもそれがしがしんていさぞ
ふしん。いまこそあかすほんしんを。も
のがたらんや。いイぎをたロらおしておてもお
いへのぼつらへよら。ーくらをこゆじ

んやあふもいまあへ。なにやぞらやま
をこひうけ。かんしゆうさいのおんゆくろ
をたづねたてまつり。ふたゝびおいへをお
こさんとこゝろをちぶにくだけども。チエ、
なさけなや。みちねいじんに一みのやつば
ら。おふたかたをすみぐまでもきびしき

せんぎ。つくぐおもひまわすれば。この
まつわうかくてあるならばおふたかたにも
しものとき。おたすけまうさんたよりには、
おれくつきやうやそれよりは。おほさら
あくじお一みとみせ。もつたいなやおやび
とに。一 かんたううけてきやうだいよ。 **ハ**

ふわとなりしはじやちふかき。しゆじんに
あゝろを一ゆるさせんため。おあかるおせ
んこくしゆじんのげんめい。かんあうさい
をけんぶんのやくめ。おふせをうけしみの
たらあく。ちうぎ一づのげんざうあれば。
やはかむざぐわかぎみをうつてわたをし

よぞんはなけれど。たせいよぶせい。もし
わかぎみにあやまちあつてはせんもなく
とやせんかくやとおもふうち。さきほども
だいのおことばに。あたらうがおもざこの
わがこにふたどのおんなげき。シヤおれくつ
きやうのおんみがはり。とッおもへどもし

やにようぼうが。あいひひかれてさまたげ
おば。いかゞはせんとおもふより。一おこ
ろにおもはぬあく祿んも。二わがこのあい
にひかされて。三しゆつせをのぞむとみせ
たるは。四そちがこゝろをひきみんため
とはしらずして。五ッしんに。わがこをきつて

ちうぎをたて。をつとのこゝろをなほさん

とは。ハ、ア、エ、ヤあつぱれでかゝたイロによろぼら

と。め、うつてかはりゝをつとのぎしん。

きくによろぼらがうれゝエ、ハ、ケ、ナ、ナなきナ、ク、リ、上なかにみ

だいハ、ケ、エはてをイ、ロあはせ。 四間合 ちうぎのため

あくとなり。たつたひとりハ、ケ、ナ、ナのほんハ、ケ、ナ、ナそこを

わがこのために。みがはりとは。あエ、ハ、ケ、ナ、ナんま

りハ、ケ、ナ、ナめう。がハ、ケ、ナ、ナおそろしい。たハ、ケ、ナ、ナとへかなは

ぬきわまでもうつてをのがれハ、ケ、ナ、ナたらうが。

いのちはどうぞたすけてたもハ、ケ、ナ、ナ。たハ、ケ、ナ、ナのむわ

いのと。おハ、ケ、ナ、ナんハ、ケ、ナ、ナあハ、ケ、ナ、ナいハ、ケ、ナ、ナのハ、ケ、ナ、ナこハ、ケ、ナ、ナろハ、ケ、ナ、ナろハ、ケ、ナ、ナはハ、ケ、ナ、ナひハ、ケ、ナ、ナ

とつ二みちハ、ケ、ナ、ナにハ、ケ、ナ、ナかハ、ケ、ナ、ナらハ、ケ、ナ、ナむハ、ケ、ナ、ナなハ、ケ、ナ、ナさハ、ケ、ナ、ナげハ、ケ、ナ、ナぞハ、ケ、ナ、ナ

せつなけれセツナレ。まつあうはつとマツアウハツト、ひれふし

てテ、ありがたきおんおふせ。たどへそ

のばはおとすとも。でぐちくはくみこの

おほぜい。のがれがたきごコリヤに一チめい。

ようぼうかぐこのうへはおんみがはりの。

おやくにたてるにゐはいはあるまいヤイ。

こたらう。ぐわんぜんくともきくわけて。

わかぎみのおんため。おやのため。いさぎ

よくいの方をすてよ。いひをしゆるもて

おやのエにくもコとろくるふびんさ

を。ちうぎのためとくひしカばる。みるに

めもくれメモクレによらヨラぼうもみミだいもダイともトモにニこコるル

にかほに又キルチヨシあいニにニゆレくル。合合わわくくわわケケエエケケ。

ケケーーそらさだめサあアきキひヒやヤこコづヅづヅ。合合つツよヨ。

きキらラゑエだダにニもモらラさサぬヌあアみミだダのノあアめメやヤ。一キヤ

合合わわいイおオヤヤおオけケりリひヒとトはハわワかカれレてテまマたタひヒとトはハ

みミどドりリをヲのノこコすスえエらラごゴらラのノまマつツにニあア

われレをヲとトどドむムらラんン。

義太夫獨習新書參の巻終

大正九年五月三十日印刷
 大正九年六月十六日發行
 大坂文樂社義太夫研究會編纂
 義太夫歌音律書卷の巻頭らん
 かなほにまあいかにゆく
 そらさだめあきひとじつ
 なたにもらさぬあみだのあめや
 ひどはわかれてまたひどは
 みどりのをこすえうごうのまつにああ

大正九年五月三十日印刷
大正九年六月十六日發行



大坂文樂社義太夫研究會編纂

著作兼發行者
大坂市東區船越町二丁目六十一番地
合資會社 大坂文樂社

代表員社 松原助四郎

印刷者
廣島市天神町十七番地
二宮齊美

大坂市東區船越町二丁目六十一番地

發行所

合資會社 大坂文樂社

電話東二一九八番
播磨穴阪三五二一一番

